

社会福祉学専攻 博士課程前期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・関連領域も含めた、社会福祉に関する幅広い知識が説明できる。 ・取り上げた課題に関わる先行研究や実践例等について十分理解し説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した課題について一貫した論理で説明できる。 ・参照すべき文献・資料、実践等についての的確な判断が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉が課題とすべき諸問題への真摯な取り組みや解決への意欲が認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者養成においては基礎的な研究方法が会得されている。 ・高度専門家養成においては、高度な実践スキルを会得している。 	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者養成と高度専門家養成の2つのトラックに応じた科目を置く。 ・他大学社会福祉学専攻との単位互換システム(社会福祉専攻連絡協議会)を利用できる。 ・他分野からきた学生には、学部科目も含めた社会福祉の基礎知識の修得ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者養成においては修士論文指導(特別研究)を充実させ、研究の基礎的思考が修得できる。 ・高度専門家養成においては、現場と連携した指導体制のもとでの、高い問題解決能力が修得できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の社会福祉の課題との関連付けやフィールドワークの実施への意欲が高められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文献研究、調査方法、実習等のスキルを向上させるような科目を置く。 	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずしも学部で社会福祉を学んだ人だけでなく、関連領域で学んだ知識を社会福祉領域で生かすことができる能力を持っている人。 ・社会福祉の基礎知識を持っている人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究的な思考や実践への適性がある人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉分野への関心が高く、具体的な研究や実践の課題を設定しようとする意欲がある人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心領域や課題について一定の専門用語を使つて的確に説明できる人。 	

社会福祉学専攻 博士課程後期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉学を体系的に説明できる。 ・取り上げた研究課題について、内外の先行研究を十分理解し自分の研究に位置づけ説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題を達成するための一貫した論理思考が示されている。 ・独自の枠組みや視点が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉学の課題として重要な論点への挑戦が認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究方法を十分理解しており、それを研究課題の達成のために駆使できている。 ・論文作成の技法や表現を身に付けている。 	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・関心分野について先行文献の理解ができ、それを踏まえた課題設定ができる。 ・その課題を社会福祉学の体系の中に位置づけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文指導の中で、研究能力をレベルアップさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課程博士取得のために毎年研究計画を見直し、適宜学会報告、学会誌投稿等を行う意欲がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究方法や論文作成の方法についてより深く修得し、それを博士論文において利用できる。 	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉全体についての基本的な知識と理解がある人。 ・具体的な課題設定や研究計画を書く知識がある人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究的な思考や問題解決のための判断能力がある人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する現代社会における社会福祉の諸課題に挑戦し、新たな理論や実践の方向へむかって挑戦できる人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な研究方法を学んでいる人。 ・研究計画書を表す能力がある人。 	

教育学専攻 博士課程前期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・人間と社会、及び両者の関わりについて、教育学に関する専門性を持って理解することができる。	・教育に関する様々な事象について、文献研究的、多角的に検討を加え、学識と専門的視野を持って適切な判断を行うことができる。	・教育に関する諸問題を専門的な視野に立ち分析するための関心・意欲・態度を持つことができる。	・教育研究の方法論を理解し、活用することができる。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・家庭、学校、社会における教育事象について理解し、専門的な洞察を深めるために、理論と実践のバランスの取れたカリキュラムを編成する。	・専門性を有する研究者・実践者を育成するため、専門的科目と、学際的科目を置く。	・単位互換制度による履修のほか、他専攻、他大学の科目聴講を含めた幅広い科目の履修と、個別指導を中心とした論文指導を通じて、教育研究への関心、意欲、態度を高めていく。	・教育学の専門的研究を進めるための文献研究的・量的・質的方法論や、学際的な研究ができるようなカリキュラムを編成する。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・教育研究を理解するための学力を備えている人。	・自分の持っている専門的な知識に基づいて、主体的に思考・判断できる人。	・高度な専門的知識形成を目指して、教育問題に取り組むとともに、教育に関する研究者や実践家を目指したい人。	・自分の見解を適切に述べるることができる表現力と論理的思考力を持っている人。	

教育学専攻 博士課程後期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・人間と社会、及び両者の関わりについて、教育学に関する高度な専門性と、博士の学位を取得するに足る深い学術的知見を持って理解することができる。	・教育に関する様々な事象について、文献研究的、多角的に検討を加え、深い学識と高度な専門的視野を持って適切な判断を行うことができる。	・教育に関する諸問題を高度に専門的な視野に立ち分析するための関心・意欲・態度を持つことができる。	・教育研究の方法論を最新の研究を踏まえて理解し、活用することができる。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・家庭、学校、社会における教育事象について理解し、高い水準での専門的な洞察を深めるために、理論と実践のバランスの取れたカリキュラムを編成する。	・高い専門性を有する研究者・実践者を育成するため、専門的科目と、学際的科目を置く。	・単位互換制度による履修のほか、他専攻、他大学の科目聴講を含めた幅広い科目の履修と、個別指導を中心とした論文指導を通じて、質の高い博士論文を完成させるための関心、意欲、態度を高めていく。	・教育学の優れた専門的研究を進めるための文献研究的・量的・質的方法論や、学際的・国際的な研究ができるようなカリキュラムを編成する。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・教育研究を高度に理解するための学力を備えている人。	・自分の持っている専門的な知識に基づいて、主体的・論理的に思考・判断できる人。	・高度専門職として必要な知識と研究能力の形成を目指して、教育問題に取り組むとともに、教育に関する研究者や実践家を目指したい人。	・専門的立場から自分の見解を適切に述べるることができる表現力と論理的思考力を持っている人。	

現代社会論専攻 博士課程前期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・関連領域も含めた現代社会に関わる広範な知識を身に付ける。 ・身に付けた知識の意義や役割について先行研究等について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えに基づいた問題解決を行え、問題解決の結果を次に生かすことができる。 ・情報収集や発信等自分の活動がどのような影響を及ぼすか判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学が課題とすべき諸問題への取り組み状況から意欲・態度を育む。 ・常に課題意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者養成においては基礎的な研究方法を獲得し、情報の収集・選択・処理といった一連の活動を利用することができる。 	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する現代社会の社会現象や社会問題に向けて、社会学・歴史学・人類学・経済学等の研究者養成と専門家養成に関する科目を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の社会現象や社会問題について研究の基礎的思考が修得できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の社会現象や社会問題について常に課題意識を持たせる科目を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の社会現象や社会問題についてその本質をしっかりと理解し適切な表現ができる。 ・その際、正しい学術論文の書き方を熟知している。 	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の社会現象や社会問題に向けて、社会科学の基礎知識を持っている人。 ・英語学術論文を吸収できる語学力を有する人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部卒程度の社会科学的思考・判断力を有する人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学分野への関心が高い人。 ・常に課題意識を持つ人。 ・制作物や発表等の取り組みに意欲を有する人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の本質をしっかりと理解し、口頭及び文面で適切な表現ができる人。 	

現代社会論専攻 博士課程後期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・関連領域も含めた現代社会に関わる体系的な知識と、身に付けた知識の意義や役割について学術的知見を修得している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学に関する研究課題に取り組める理論的技術・知識を有する。 ・独自の研究計画と視点を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学が課題とすべき諸問題を高度に展開できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究方法を身に付け、研究課題を発展させる能力を有する。 	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する現代社会の社会現象や社会問題に向けて、社会学・歴史学・人類学・経済学等の先行文献の理解ができ、課題を追求することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の社会現象や社会問題について課題を設定し、思考・判断する能力を高める。 ・博士論文の遂行能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における研究課題を考察し、学会誌に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文に必要な技能を修得するための指導。 	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学の基礎知識を持って、高度な研究を行うことができる人。 ・英語学術論文を利用できる語学力を有する人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程修了水準の社会科学的思考・判断力を有する人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学分野における諸課題に意欲的に取り組み、更に高度な学術的レベルに意欲を持つ人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期課程に必要な基礎的研究方法を学んでいる人。 ・独自の研究計画を遂行する能力を有する人。 	

心理学専攻 博士課程前期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・人間と社会に関わることがらについて広範な知識を有し、科学的・客観的理論と研究法を修得し、専門家としての実践力がある。	・社会機構の複雑化、人間関係の多様化に対応した人間の行動法則や心の構造・機能の解明と判断が行える。	・心理学の伝統を正しく受け継ぎ、新しい発展に寄与しうる能力を有する。	・実証的な理論と研究法に立脚した高度なコミュニケーション能力を有し、実践における専門的技法を修得している。更に臨床領域においては臨床心理士第1種指定大学院に相応しい実践力を有している。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・担当分野の専任教員による演習と講義を置く。更に専任教員の担当分野以外の領域を対象とする非常勤講師による演習と講義を置く。	・心理学の観点から問題を設定し、思考・判断する高度な力を修得するための心理学研究基礎論を置く。更に臨床領域においては臨床家としての実践的思考・判断力を修得するための演習と実習を置く。	・他領域の院生の問題意識及び研究テーマを知ることができる心理学研究基礎論を置く。	・研究に必要な技能を修得するための特別研究を置く。更に臨床領域においては必要な実践力を修得するための演習と実習を置く。	・一人一人の院生に教員全員が関わるとともに、院生間の情報の共有を図るための心理学研究基礎論を置く。
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・心理学に関わる学部卒レベルの知識と理解を有し、心理学に関する英語文献が読める程度の語学力を有する人。	・学部卒レベルの心理学的思考・判断力を有する人を希望する。更に臨床領域においては臨床家としての思考・判断力を修得しうる能力を有する人。	・心理学の伝統を正しく受け継ぎ、人間の様々な分野における問題に心理学の立場から関わる力を有する人。	・学部卒レベルの、問題の設定とその研究のための研究デザイン立案に関わる基礎的スキルとコミュニケーション力を有している人。	

心理学専攻 博士課程後期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・専門分野において博士の学位を取得するに値する深い学術的知見と技術を修得している。	・社会機構の複雑化、人間関係の多様化に対応した人間の行動法則や心の構造・機能の解明と判断が行える。	・心理学の伝統を正しく受け継ぎ、新しい発展に寄与しうる高度な能力を有する。	・実証的な理論と研究法に立脚した高度に専門的なコミュニケーション能力を有し、実践における専門的技法を修得している。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・担当分野の専任教員による演習と講義を置き、更に個別の研究指導にあたる。必要に合わせて、専任教員の担当分野以外の領域を対象とする非常勤講師による演習と講義を置き、更に個別の研究指導にあたる。	・心理学の観点から問題を設定し、思考・判断する高度な力を修得するための心理学研究基礎論を置き、更に個別の研究指導にあたる。	・他領域の院生の問題意識及び研究テーマを知ることができる心理学研究基礎論を置き、更に個別の研究指導にあたる。	・研究に必要な技能を修得するための特別研究を置き、更に個別の研究指導にあたる。	・一人一人の院生に教員全員が関わるとともに、院生間の情報の共有を図るための心理学研究基礎論を置く。
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・博士課程前期修了レベルの、高度な研究を行うために必要な心理学に関する知識と理解を有する人。	・博士課程前期修了レベルの心理学的思考・判断力を有する人。	・心理学の伝統を正しく受け継ぎ、人間の様々な分野における問題に心理学の立場から、博士課程前期修了レベルの関わる力を有する人。	・博士課程前期修了レベルの技能表現を修得し、後期課程における研究において必要とされる高度なスキルとコミュニケーション力を有している人。	

相関文化論専攻 博士課程前期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・多様な文化領域に対する広汎な知識と、研究テーマに関する高度な専門知識を有している。	・文化の相関性と相対性に立脚した、論理的な思考に基づく、事象の分析と解明ができる。	・従来の学問領域に拘泥しない、新視点の研究を試みている。	・綿密な計画を立て、研究に必要な言語を駆使して調査・研究活動を行い、研究成果を論理的にまとめて発表することができる。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・文化に関する多様な視点を知り、知識の偏りを回避するとともに、専門分野を掘り下げるための講義科目を置く。	・文化の相関性と相対性に立脚した、複眼的な事象の分析と解明を行う能力を養うための演習科目を置く。	・常に課題を自主的に見出し、その課題を探究する能力を養うための演習科目を置く。	・研究に必要な言語の運用能力の専門的なレベルへの向上を目指すとともに、論理的な表現力を身に付け、研究の集大成としての修士論文を課す。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・世界の多様な文化に関する知識と研究対象とする文化に関する研究情報を有している人。	・文化を国際的・学際的な視点から多元的に捉え、自分の研究が社会にどのように貢献できるか考えられる人。	・多様な文化に対する好奇心と研究対象に対する探求心を有している人。	・十分な語学力を有し、自分の考えを論理的に表現できる人。	

相関文化論専攻 博士課程後期

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・当該分野における最先端の知識を有している。	・多様な事象を融合させた、重層的な視点に基づく研究を行っている。	・オリジナリティのレベルが高い、新分野の学問領域を開拓している。	・研究対象地域の使用言語による研究発表を行い、論文を作成できる。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・研究対象とする文化に関する最新の情報を知り、最先端の研究状況を理解する。	・文化の相関性と相対性に立脚した思考から、重層的な研究を展開する能力を養う。	・様々な学問領域をリンクさせる思考から、新たな発展領域を創出する能力を養う。	・研究対象地域の言語による原典や研究論文を理解する能力の向上を目指す。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・多様な文化領域に対する広汎な知識と、研究テーマに関する高度な専門知識を有している人。	・文化の相関性と相対性に立脚した、論理的な思考に基づく、事象の分析と解明ができる人。	・従来の学問領域に拘泥しない、新視点の研究を試みている人。	・綿密な計画を立て、研究に必要な言語を駆使して調査・研究活動を行い、研究成果を論理的にまとめて発表することができる人。	